

学習指導案の形式（例） 中学校理科

第〇学年〇組 理科学習指導案

平成〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 〇〇〇〇〇〇〇

◇まとまりをもった教育内容の単位の名称を記述する。

◇指導と評価の一体化の考えから「2 単元の目標」は原則「3 単元の評価規準」や「4 指導と評価の計画の評価規準」と同様の内容となる。（文末表現注意）

2 単元の目標

- 「自然事象への関心・意欲・態度」に関する目標
(例：～を科学的に探究する。)
- 「科学的な思考・表現」に関する目標
(例：～分析して解釈し、自分の考えを表現することができる。)
- 「観察・実験の技能」に関する目標
(例：～について習得するとともに、～を身に付けることができる。)
- 「自然事象についての知識・理解」に関する目標
(例：～を理解し、知識を身につけることができる。)

◇学習指導要領で示された目標及び内容を踏まえて設定する。
◇生徒の立場で書く。

3 単元の評価規準

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解
例：～を科学的に探究しようとしている。	例：～分析して解釈し、自分の考えを表現している。	例：～について習得するとともに、～を身に付けている。	例：～を理解し知識を身につけている。

◇評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 理科】』（平成23年11月 国立教育政策研究所）等を参考にして、適切に設定することが望ましい。

4 指導と評価の計画（全〇時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	思	技	知	
一	1	○主な学習活動	○				○評価規準（評価方法）
	2	◇生徒の立場で簡潔に書く。		◎			◇学習活動に応じて、評価規準を具体的に書く。 ◇評価方法も合わせて書く。 ◇毎時間の評価の観点は、一つか二つ程度に絞る。二つの場合は、評価の観点の○印等に対応するように評価規準及び評価方法を書く。 ◇生徒の立場で書く。
二	1	◇単元の中に、四つの評価の観点がどのように位置づけられているかを○印等で示す。 ◇評価時期を考え、バランスよく評価する。			○	○	

5 指導上の立場

- 単元観
- 生徒観
- 指導観
- 研究主題との関連
- 全国・県学力調査との関連

◇指導者の立場で書く。

- ◇単元観……………取り上げる単元の内容、既習事項との関連、今後の展開、その単元を取り上げる意義、単元・教材と生徒の関係など。
- ◇生徒観……………生徒の興味・関心・意欲、単元に関する知識・技能、既習事項の定着度など、前単元までの実態や本単元で育てたい望ましい生徒像。
- ◇指導観……………指導・支援の力点、学習形態、仮説、その他の配慮事項など、生徒のよさや可能性を生かすような工夫や手だて。
- ◇研究主題との関連…研究主題の説明を簡潔に記述し、研究主題と授業研究における指導仮説を明確にして書く。
- ◇全国・県学力調査との関連…現状と課題、課題についての取組を書く。

6 本時案（第〇次 第〇時）

(1) 本時の目標

- ◇単元の指導計画に即して、本時の学習活動の目標を具体的に示す。
- ◇単元の目標や評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

例：～することができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 ◇生徒の立場で書く。	○ ◇学習活動に対して主となる指導・支援を書く。 ◇指導者の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
2 ◇導入・展開・終末の学習過程に沿って生徒の学習活動を書く。 ◇一人一人の生徒が何をめあてに活動すればよいのかをつかめるように具体的に書く。 ◇複数の活動があるときは(1)(2)のように明記する。 ◇岡山型学習指導のスタンダードの1単位時間の授業5(ファイブ)を参考にする。	めあて ○ ◇生徒の目的意識のまとめりや活動目標など、本時のめあてを示す。 ◇本時で何をどのように学ぶかの見通しがもてるようにする。 ○(例：～することで、～できるようにする。) ◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に書く。 ・予想される生徒の反応 ・生徒一人一人の学習進度に応じた手だて ・生徒が主体的に、学習を進めるための手だて ・資料提示の機会や方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「努力を要する」状況(C)と判断される場合における生徒への手だての例を示す。	◇本時の目標との整合を図る。評価の場面は1、2か所。 ◇評価規準を具体的に書く。 ◇評価の観点や方法を書く。 〔評価の観点〕(評価方法) ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノートの記述 ・ワークシートの記述 等
3	○例：～を一緒にすることで、～できるようにする。	
4		
5	まとめ ○ ◇本時に何を学んだのが分かるように整理し、めあてと対応したまとめの文章表現の例を示す。 ◇まとめは、本時の目標や学習内容に応じて柔軟に位置付ける。	○(例：～について理解している。) 〔知識・理解〕 (ノートの記述)

◎「おおむね満足できる」状況(B)と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿を具体的に書く。

(3) 準備物

(例：実験プリント、ビーカー、温度計、マッチ、ガスバーナー…)

◇ワークシート、実験プリント、その他実験器具等必要な準備物を書く。